



風

俗文

選

目録

一

序

目錄

作者列傳

文
187
一

其上

5
688
1



門 割
號 688
卷 1



本
朝
文
選

正
本
卷
六

明治二十六年十一月五日
坪内雄藏氏寄贈





五老の文庫

五老井許六選



風俗文選序

月澤 律師 李由述

飛蝶乃羽友子。五老井の許六。滑然有
俳諧新古今。又事と拾ひ集めく風
俗文選と題を。むしや。と。新文。集め
て。この。本を

本朝の八咫速作よりして。文乃傳。す。い。ん。文

本朝の八咫速作よりして。文乃傳。す。い。ん。文

東京府豊島区
新井町百拾番地
軒内雄藏

此とす。一。江東僧律師事由字貫年
於四梅庵序



風俗文選序

洛柿舎

去來

世小俳諧の文ありてを集めてしむと欲いしむと。先
所一しむい立ちむるはと。心よかきよむ希か神を
むるもや之あるも十と世余ある世なるらん。今や同家
おも神れ。凡雅小技ふらふら。小。管。埙。篳。篥。を。横。へ
又揚子。脣。を。あ。ら。ふ。と。お。す。く。あ。ら。ふ。と。今。け。文。集。を。弁
を。今。く。始。に。紫。門。辭。あり。終。に。頌。讚。の。風。流。を。畫。も。
或。ら。古。あり。或。は。福。あり。て。説。賦。の。よ。と。式。述。又。謀。略

世にあらばおとらしてはゆるらん。碑もむらしてむと
 さふらぬや。世に乃後目よあそぶ合点とるらん。も
 けらぬ家神の終家祀もあつらん。古味乃
 帯白糸もおの終りしらん。あそひらん。じうの
 をごははるらんかとりし事なり。夫らこ終ると
 月よあそび。此をこ終るとそ花よあそぶ。竜吟
 と神のそ起つ。虎鳴まば亦も。梅も。あ
 り来り。麻。さつさつあつら終りし。てあそぶ
 む。先師。つひふらん。漢よ之乎者也の四字を
 して。孝終る早終りをし。和よのそを波の
 四字とし。異。一涼。一乃時ととし。のそとあそぶ

ありて。あそぶを波乃り。中なるあそび。神の一句
 終りをし。二句終り。終りをし。あそび。あそび
 息乃つぎ。あそび。あそび。あそび。あそび。あそび
 つ。あそび。あそび。あそび。あそび。あそび。あそび
 我。あそび。あそび。あそび。あそび。あそび。あそび
 家。あそび。あそび。あそび。あそび。あそび。あそび
 あり。

寶永九年甲申臘月日



風俗文選

自序

五老井許六選

文ら貫道ノ器也孔子も案力あり
 礼を學べしと云り吾邦禮首のび
 あり大和詞代文筆庫子も車
 みてむらまきと世ふおこる
 おほさる女者の學子して源流

長乃半しうひ。男女共中。試はう。實
奇よまほへき。道はまた終へ。共り
歌連哥の文法め。誦讀文章早ん
格式一言もたし。先師芭蕉翁。始て
一格試とて。氣韻生動とあふ。き
たとひ。鄙言漢字をまず。へりとも
甲ら吉野き。川田の花。み葉をうらや

み。和祈の浦心志。試よせて。難波津。細き
よ。あをた。る。志。る。べ。縦横自在を
畫。一。事。を。し。も。ひ。の。入。趣。を。平。列。の。本
た。く。て。六。帝。皇。家。の。丸。の。物。は。う。子。落。く。
果。の。松。坂。を。仕。舞。し。る。世。の。甚。と。下。り。事。
る。る。べ。一。つ。あ。り。中。あ。ら。ん。と。文。章。舞。の。二十。
文。の。一。百。十。有。余。篇。皆。く。俳。諧。文。系。也。

山流をのみ。こゝに...
おを井神子の撰に集て。家名承之。自歳。
自序して。風俗文選と云ふ。



本朝文選

作者列傳

芭蕉翁者伊賀之人也。武名松尾甚七郎奉仕。藤堂家。壯年時辭官遊。茂列江戸風雅。為業。號桃青。乃誹諧正風。躰中興開祖也。掌世為遺。功修武。小石川之水道。四年成。速捨功而入深川。芭蕉菴出家。年三十七。天下稱芭蕉翁。遊。東西南北。說風雅。即諸門人。國中悉歸。芭蕉風。一遇難波津。伏病。終。卒。年五十一。葬江。列義仲寺。浪化者。東門主。一。如大僧正之連枝也。魂。

真院。居千越中井波瑞泉寺。一日遊洛。芭蕉翁效風雅。後著有磯海前後集。病薨。年三十二。

僧丈艸者。尾州犬山產也。其年辭武出家。隱松本山上。蕉門之騷客也。能詩。後三年閉關。而終不出。病死。常讀法華經。年四十四。僧千那者。江列堅田產也。居千本福寺。釋名妙式上人。掌任律師。號蒲萄坊中華蕉門之高弟也。

僧李由字買年。近列之產也。居千光明遍照寺。釋名亮隅上人。掌任律師。入蕉門而學風雅。年久。故著韻塞篇突字陀法師書。病死。年四十五。

支考字盤子。號東花西花。亦號獅子庵。濃列之產也。入蕉門業風雅。一方門人也。先師滅後遊東西南北。說風雅而助諸生。故往徃慕支考風者多矣。中遇居于勢列山田。後歸故國。作誹書數篇。辨俳諧之論。晉其角者。武列江戶產也。生醫家。不學醫術。終業俳諧。寶井氏。號狂而堂。蕉門之一人。而後起已一風。著誹書數篇。

嵐雪者。服部氏。不知何許人。業風雅。遊武

戶蕉門之高弟也。後別妻出家。

野波者。越之前列人。生商家。居于武江戶。蕉門之學者也。一遊西海。不定其所居。隨師得炭俵之撰号。

北枝者。加別金澤之人也。業磨土。見蕉翁好風雅。北方之逸士也。

涼菟者。勢列山田神職之人也。業風雅。初號團友。

露川者。伊賀之人也。生商家。居于尾名護屋也。好蕉門之風雅。

雲鈴者。奥列南部之人。產武。壯年入道。自號摩詰菴婆且人。風雅師。東花坊。一渡。依渡島。著入日記。

吾仲者。洛陽人也。居于六條。業佛画。好風雅。師李由。自號柳後園。著林表紙三卷。

路通者。不知何許。者不詳其姓名。一見蕉翁聽風雅。其性不實輕薄。而長違師命。飄泊之中。著俳諧之書。

凡兆者。加別之產也。業醫。居于洛。學蕉門之風雅。一罪事。不知其終處。

素堂者。山口氏也。居于武陽。避世務。隱于深川。友芭蕉翁善。

嵐蘭者不知何許人。松倉氏業武奉仕板倉家而奉諫速辭官。携母隱于武淺州。蕉門之老弟也。為月遊于錄倉病死。

荊口者濃別大垣之武士也。宮崎氏蕉門故老之士也。此節千川文鳥三士之父也。後致仕改名東宇。

去來者肥前之產也。後隨兄居于洛陽。向井氏也。中華蕉門之高弟也。號落柳舍。隨師選拔。後病死年五十三。

万子者加列金澤之武士也。生野氏號此君菴。蕉門之英士也。

厚為者加列木聖寺之武士也。河地氏蕉門之英士也。病死。

木導者江列龜城之武士也。直江氏自號阿山人。蕉門之英才也。師翁稱奇異逸物。

汶村者江列龜城之武士也。松井氏字師薑。號九華亭。蕉門之達士也。嘗能書畫。繪師五老井。

毛統者江陽彦城之武士也。北山氏号大雅堂。好風雅。愛畫圖。師五老井。

程已者近列龜城之武士也。朝倉氏号白目堂。愛蕉門之風雅。

朱迪者江陽安城之武士也。寺島氏号其露臺。年久好風雅而入蕉門。病死年四十三。撰者許六者江列龜城之武士也。名百仲。字羽官。森川氏號五老井。别号菊阿佛。一見蕉翁得正風躰實血脉道統之門人也。常友李由撰俳書數篇。

以上二十八人

風俗文選目錄

五老井許六選

○卷之一

辭類

柴門辭

芭蕉翁

歌辭

許六

示秋之坊辭

支考

示古鏡辭

李由

送新道心辭

文柳

燒蚊辭

崙蘭

鉢扣辭

去來

四季辭

許六

○卷之二

賦類

南都賦

汶村

鎌倉賦

許六

吉野賦

丈柳

松嶋賦

芭蕉

富士賦

嵐蘭

湖水賦

李由

前磨山賦

支考

後磨山賦

去来

○卷之三

賦類

附譜

鼠賦

去来

旅賦

許六

揚揮豆賦

毛統

四採廬賦

李由

閑居賦

汶村

招魂賦

支考

譜類

百鳥譜

支考

百花譜

許六

山水譜

許六

○卷之四

說類

箕虫說

素堂

柴賣說

九兆

閉關說

芭蕉

師說

許六

名阿段說

許六

出女說

木尊

雜說

不知作者

愛釋說

万子

卍字應說

程巳

草刈說

露川

山羊說

吾仲

嘲霄惑說

毛紉

解類

獲麟解

許六

長雪隱解

許六

藪醫者解

汶村

○卷之五

記類

落柿舍記

去來

幻住菴記

芭蕉

十八樓記

芭蕉

五老井記

許六

九華亭記

汶村

琵琶亭記

許六

風水二臺記

許六

紀行類

鹿島紀行

芭蕉

南行紀

李由 許六

序類

曠野序

芭蕉

猿蓑序

其角

宴柳後園序

支考

要文集序

許六

近江八景序

千那

画樓繪合序

許六

四絕文章序

李由

麻生後序

許六

銀河序

芭蕉

番椒序

野坡

○卷之六

箴類

飲食色欲箴

許六

聽箴

許六

銘類

札銘

芭蕉

東銘

支考

西銘

許六

茶碗銘

嵐雪

雲華園銘

汶村

飯鮓銘

吾仲

左右銘

芭蕉

是非齋銘

許六

誄類

嵐蘭誄

芭蕉

丈艸誄

去來

去來誄

許六

○卷之七

歌類

挽歌

支考

鄙歌

五首

文類

俳諧發願文

浪化

聖靈祭文

李由

剃髮文

支考

祭猫文

支考

吊古戰場文

芭蕉

斷絃文

許六

○卷之八

傳類

公平傳

汶村

東嶺傳

芭蕉

牧童傳

支考

五郎四郎傳 支考

靈虫傳

去来

疝氣傳 李由

直指傳

許六

碑類

壺碑

芭蕉

箕塚碑

李由

○卷之九

辯類

詩歌誹諧辯

文州

定先後辯

支考

豆腐辯

許六

天狗辯

木尊

手足辯

汶村

人參辯

許六

射御辯

許六

表類

雨乞表

許六

嘲佛骨表

其角

讀佛骨表

厚為

陳情表

支考

○卷之十

論類

旅論

許六

仁不仁論

北枝

蕎麥論

許六

頌類

誹諧頌

李由

蕎麥切頌

雲鈴

酒德頌

朱迪

石臼頌

芭蕉

讚贊類

西行上人像讚

芭蕉

神農讚

涼兔

義少年画讚

許六

團扇贊

荊口

入學贊

許六

紫芝叟贊

許六

書類

院艷書

日蓮上人報書

解

身錄書

身錄子人錄書

身錄

身錄

身錄

身錄

身錄

身錄

身錄

柴門辭

芭蕉

瓢辭

許六

示秋之坊辭

支考

示古鏡辭

李由

送新道心辭

文州

燒蚊辭

嵐菊

鉢扣辭

去來

四季辭

許六

平

風俗文選卷之一

五老井 許六選

辭類

柴門辭

芭蕉翁



送歸許六之故鄉
餞別之文也

去年秋林。しり神の西とあるを。ちりか月のうらめ深地
別をわいび。そと秋よおぞみく。びとらる廊をきく
て。後自軍儀をたん。そを窓。繪をぬえ。内秋をとおと。う
うらんよとよみあま。繪を何乃おぬじや。内秋のあ
ぬじとつて。内秋を何のぬもしとや。画のぬもしとつ
て。ちりか月のうらめ深地。ちりか月のうらめ深地。ちりか
月のうらめ深地。ちりか月のうらめ深地。ちりか月のうらめ深地。

乃のちらやいじ。腹傳と肥少つてはあせすは何
をせよとて解乃入るるら。しらぬのたけききり
大笑して祈て云。滄流乃水すあふつけて流る
ど。濁るハ然と押せど。つらくもて去よあは

示秋之仿辞

又考

あは秋の信や。み葉みなる世乃秋。又きりぬの信は
つ神づつやくさげよ。つらみ又かひ。ぬきと人乃ん
ありく。彼ら一物もなき。とみ也。びり。湖南の紀
屋よ。一秋の信とびす。びり。其夜もなきも。ま

やすらん。あみ。やすらん。世の迅速の百とあこく先
吟も林扉よ。わらわら中さ神。今けきあ屋よ。回
んよ。の念きる法吟の。おほく信るが。おほくぬ日み。後
も信りて。かく信る。さうあや。くきり。とを神。家又
あよ。あめてあそび。何某が。とす。の。新よ。み
もや。あらん。と。と。らん。も。こ。ら。ひ。も。る。か。わ。秋の信が
云。ん。い。さ。る。み。な。らん。く。回。さ。ど。む。べ。う。も。也。後
く。かりん。を。世。晴。よ。お。ち。て。心。乃。花。よ。う。け。ら。ひ。わ。ど。
花。あ。ま。い。世。の。風。流。なり。世。よ。い。あ。ら。す。ら。も。こ。か。らん
さ。う。け。め。も。よ。あ。さ。て。い。さ。る。み。な。神。さ。う。が。ん。い。よ。る
あ。そ。よ。い。也。後。よ。ま。ど。よ。べ。う。も。志。わ。く。ら。ん。を

世に花坊がとき世情のうま名をわてびんふめを
しは流し志くおとなしん也。

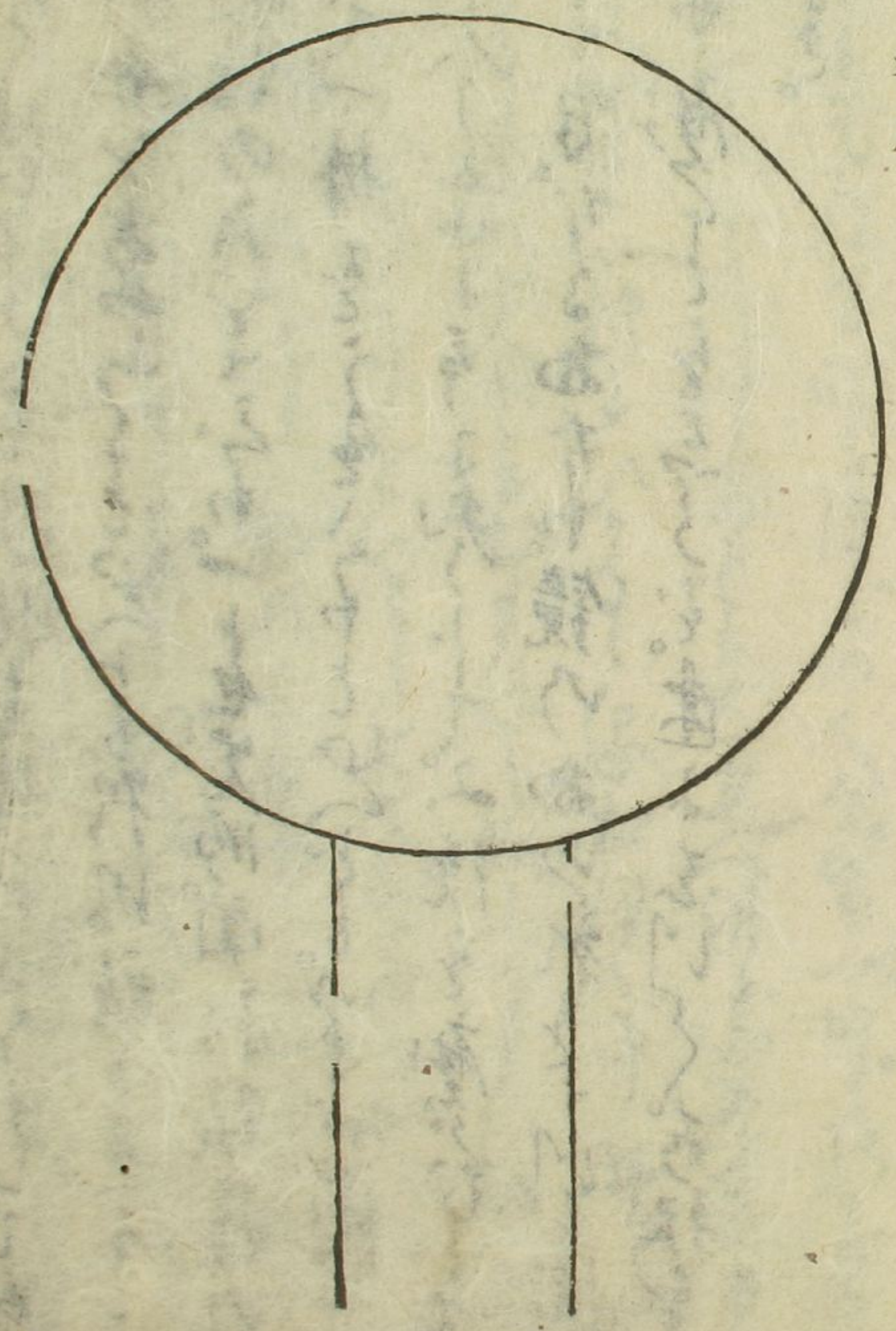
凡ゆるし之よまねもや塵劫記

示僧古鏡辞

李由

しあま傍あり。古鏡とつて子業よりて。東海の浪
あまふまは濃列園かゞど志津孫六が漑を得て
景電白中赫とと。こえ乃ひいと振ハざる也。天下
流あひく。款もさるまふあらん。さるまひり。お細今
乃ま刀とおひく。後成編乃花の後もうち見ると。今

ら茶村の津よふの流茶乃るや。しよもさるは世。
孫も陸流乃る加道。まのよもさる。まのよもさる。
ふも又丸し。



すまのつをかせ、山寺よかきまの神さうし。傳はゆわて
今乃あらるご一お西一ま。形存の公家をおこさる
こさほ乃ほとを祓ぐらて。抑ふ辞を中におわぬ。
帳屋をわく又後まあるま乃凡

焼蚊辞

嵐蘭

蚊帳中の蚊。汝を焼く辞をいへも。汝は辞を
付ら。もかきよ死とも。うぐいしたきつとせよ。又深
を。檠中よや一なる神し。体縁がわひし。彼れ心をと
二神を合をわく死く。人乃肌をせまう。かきをせむ

や。神をふくまひや。
刺ぐらるまよかたれて。まのぬやう。汝を帳に入
帳のぬやう。あは神を。うづ神とせんや。
陣ハタフリ促織乃大。入を。哀ゆとまけむりたりや。面よ深
る。も。そほちと。はそい神し。汝をたもつ。げふま乃
神の絶なむ。も。忘るむ。わく。何のあ。一。神とま。し。
汝がや。う。何を情とせむ。義神の送る。の。暫
さ。須ス山ヤ心ニが。夜付が。か神く。謀カシを。た。い
つ。も。天下の。若。ま。の。づ。又。汝。と。い。ひ。や。
利キ鷹ト森ニを。禊シ文フを。さ。け。目ヤ本ト衣ダ着クの。夷イ賊ゾクを。お。神カミま。ふ。
共トモよ。天アメ。う。し。汝。と。い。ふ。お。ま。あ。う。む。大ダイ盗トウ。あ。に。樞スを。

河内よりそむる以て。法家所懸周ふとて。名物乃安ん人
以流中似く。今ばくの人々もまなるべし。若月朝日
野原乃産つんせ。給分を小判也。びりー。若原隈町と打
たつひ。申かうが。梅子屋町。天下所合をさうりして。ま
のし洞も。は附するも。おつらん。と。おつらん。の。つ。を。と。や。ひ。子。は。朝
日。と。や。若。原。乃。事。神。の。日。也。お。つ。らん。と。若。原。の。お。氣。色。
は。若。原。乃。事。神。志。賀。の。山。びりー。若。原。乃。事。神。の。名。物。乃。是。
あ。つ。神。の。名。物。乃。是。若。原。の。産。物。も。な。り。若。原。乃。事。神。乃。産。物。
一。若。原。の。里。所。お。つ。らん。何。を。修。せ。乃。年。々。れ。く。令。
一。若。原。乃。事。神。乃。名。物。乃。是。若。原。乃。事。神。乃。産。物。乃。是。若。原。乃。事。神。乃。産。物。
あ。つ。若。原。乃。事。神。乃。名。物。乃。是。若。原。乃。事。神。乃。産。物。乃。是。若。原。乃。事。神。乃。産。物。
あ。つ。若。原。乃。事。神。乃。名。物。乃。是。若。原。乃。事。神。乃。産。物。乃。是。若。原。乃。事。神。乃。産。物。

後夜があらはれり。神々人乃懸く。賦を中れり。
之。停勢能形乃お神尾附。兼代を銀一枚。衣服小判を
つ。ま。ぞ。小。判。と。呼。び。餘。と。言。ふ。九。日。と。い。ふ。な。り。ま。ま。
小乃大晦日。一日若遠いといふ。一。年。中。若。大。油。断。
今。は。附。は。あ。つ。若。原。乃。事。神。乃。名。物。乃。是。若。原。乃。事。神。乃。産。物。乃。是。若。原。乃。事。神。乃。産。物。
私。世。乃。入。る。若。原。乃。事。神。乃。名。物。乃。是。若。原。乃。事。神。乃。産。物。乃。是。若。原。乃。事。神。乃。産。物。
若。原。乃。事。神。乃。名。物。乃。是。若。原。乃。事。神。乃。産。物。乃。是。若。原。乃。事。神。乃。産。物。乃。是。若。原。乃。事。神。乃。産。物。
代。乃。若。原。乃。事。神。乃。名。物。乃。是。若。原。乃。事。神。乃。産。物。乃。是。若。原。乃。事。神。乃。産。物。乃。是。若。原。乃。事。神。乃。産。物。
若。原。乃。事。神。乃。名。物。乃。是。若。原。乃。事。神。乃。産。物。乃。是。若。原。乃。事。神。乃。産。物。乃。是。若。原。乃。事。神。乃。産。物。
若。原。乃。事。神。乃。名。物。乃。是。若。原。乃。事。神。乃。産。物。乃。是。若。原。乃。事。神。乃。産。物。乃。是。若。原。乃。事。神。乃。産。物。
女。乃。若。原。乃。事。神。乃。名。物。乃。是。若。原。乃。事。神。乃。産。物。乃。是。若。原。乃。事。神。乃。産。物。乃。是。若。原。乃。事。神。乃。産。物。

